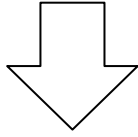
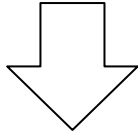


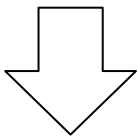
修正すべき事項は修正



選択すべき項目については選択



火山マイスター制度の原案を作成



原案を検討経過とともに次回検討会議に示す

「いぶり火山マスター育成事業」の概要(イメージ)

基本コンセプトは火山と共生する人づくりです。

20~30年周期で噴火する有珠山のある西胆振は、火山との共生が大きなテーマです。しかし、2000年噴火から7年が経過し、当時の記憶に風化の兆しも見られます。そこで、有珠火山の正確な知識を有する者に「**火山マスター**」という「**地域限定の称号**」を与え、次の噴火に備えた地域防災のリーダーとして育成し地域防災力の向上を図るとともに、平時においては貴重な地域資源となる有珠火山での質の高い火山ガイドなど、特色ある観光地づくりにも活かしていきたいです。

火山マスターとは、**有珠火山や地域の自然について正しく理解し**、この地域と火山の共生についての**理想や考えを自ら持って**、**次なる噴火に備えた地域防災のリーダー**となりうる者です。

地域のリーダーである火山マスターは、常に知識や技術を高めようとする**向上心**や、自然に対する感謝の気持ち、地域に貢献しようとする**熱意**を持ち、**豊富な経験や体験**に基づいて適切に、そして、**誇りを持って活動**することが期待されます。

胆振支庁「いぶり火山マスター育成事業」の**取り組みの柱**は次の3つです。

- 火山マスターのレベルアップをサポートする**
 - 養成講座の実施
 - 有珠火山に関する専門的知識
 - 野外活動の基礎知識
 - フィールド実地講座
 - 実施方法

検討委員会が主催する養成講座のほか、地域の関係団体などが実施する講習会や学習会などのマイアップを検討する。
- 火山マスターを認定する**
 - 火山マスターになるためには

火山マスターに応募し、指定する養成講座を履修した後、フィールドなどで行う面接審査を受け、火山マスターとしてふさわしいと認められた者に称号を付与します。

```

          graph LR
            A[応募] --> B[養成講座]
            B --> C[フィールドでの実地審査  
(筆記試験は行いません)]
            C --> D[称号付与]
          
```

*養成講座、面接審査、称号付与については、当面、いぶり火山マスター検討委員会が行います。
 - 火山マスターの活躍イメージ
 - 有珠火山の防災活動のリーダー
 - 質の高い火山ガイド
- 火山マスターが活動する環境を整える**
 - 地域の防災教育・啓発活動との連携
 - 地域住民に対する火山防災教育での火山マスター活用の仕組みづくりなど
 - 有珠火山防炎会協議会との連携
 - 立ち入り禁止区域への立ち入りに係る地元合意やルールづくり
 - エコミュージアム推進協議会との連携
 - 火山の恵みエリアでの協働
 - 火山マスターについて知ってもらう
 - 火山マスターの特性や活動内容をPR（観光振興につなげる）
 - 地域の活動と火山マスターのマッチング

大項目	中項目	小項目	意見要旨	説明	補足コメント
火山マスターとは	火山マスターとは		火山マスターのイメージは、防災メインでそれを観光に活かすイメージ 火山マスター制度の検討当たっては、自然とどう向き合うかが大切。あまり狭く考えない方がいい 有珠地域に縁もゆかりもない人は火山マスターになじまないのではないか。地域で活躍している人、これまでも学習会に参加している人を対象に 火山マスターは、今活動している人・もっと知りたいという人たちのレベルアップを図る場であるべき 火山マスターの人数を最初から考えるべきでない 火山マスターにあまりたくさんの方を望むと負担に感じるのではないか マスターの安売りはしないであらう。 誰でもなれるような資格ではなく、ハードル高く 立ち入り禁止区域は国立公園特別保護地区。この中で活動を想定するのであれば、安易な資格(権利)付与には反対。 1~2回の講座でマスターの称号与えていいか。高いレベルの人に与えるべき 候補者がたくさんいるなら別だが、ある程度の人数を確保するために、ハードルが低い方がいいのではないか。 有珠火山に関する学習活動を実践する人に与えられる称号で、何人にも与えられる必要がある。 火山マスターのレベルは、求める理想となり手の力量(現実)の引き合いで決まるもの 一人で全部知っているのではなく、何人かの得意分野が合わさって完成した火山マスターとなる仕組みもあるのでは 火山マスターがどう生かされていくかイメージが明確でないよとわからない。		
		資質	この地域と火山の共生についての理想・考え方を自ら持っている 知識や技術を高めようとする向上心を持っている この地域に貢献に対する熱意を持っている 豊富な経験や体験がある		
火山マスターとは	火山マスターに求める能力	有珠火山の専門知識	有珠山のおいたちや特徴について理解している 他の火山と比べた「有珠山」を知っている 噴火の仕組み・噴火の歴史を理解している 2000年噴火について理解している 次の噴火に備えた取り組みについて理解している 有珠山周辺の動植物などに関する基礎的事項について理解している 災害に対する基本的知識		「1 火山マスターに求める能力」へ
		野外活動の基礎知識	自然に配慮するためのマナーやモラルを理解している ガイド行為に伴う様々な危険の発生要因を理解している。 野外で安全に行動するための気象に関する知識を理解している。 参加者に応じた対応のあり方や、コミュニケーションのあり方などについて理解している 法令・保険・リスクマネジメントなどの知識がある。(上の2行目の続きみたいなものです)		
		フィールド活動技術	現地で火山や自然に関する正確な説明ができる。 気候や気象条件、参加者の年齢・性別に対応した行動をすることができる 参加者の年齢・性別などに応じて説明内容を組み立てることができる 救急時の対応が出来る。		
火山マスターの活躍イメージ	火山マスターの活躍イメージ	防災	地域住民に対する火山防災教育の実践 有珠山の正しい知識の普及啓発活動(有珠山をよく知る) 現地案内活動(※観光的要因は排除する。) 小中学校の総合学習の講師 学校等火山教育の支援 地域の防災勉強会・講習会などの講師 次の火山マスターの育成 地域の火山防災活動に対する助言、協力		「2 火山マスターの活躍イメージ」へ

		観光	より学びたい者の知的好奇心を満たす質の高い火山ガイド 観光ボランティアガイドとして有珠山遊歩道や昭和新山、洞爺湖ビジターセンター、足湯で自然ガイド ホテル従業員が資格をとって、ホテル独自で火山ガイド 観光パンフ、バスガイドさんのマニュアル、各種施設の記載内容の点検・助言 規制区域内でのガイドが可能なことをいいことに、商業主義のガイドが出来ては困る。			
		連携	行政や火山専門家との連携と協力			
1 火山マイスターへのレベルアップをサポートする	養成講座の実施		火山マイスターの引率人数等に制限は不要。その判断が出来る力量の人を認定すればいい 講座を10講座くらいやって、人を育てていくような仕組みがいい 学校や防災講習会の講師などは、2〜3回講義を受けただけではできない 知識として知っていることと、現地で説明することは違う 自分で研鑽して学んでいく仕組みづくり、横のつながりで人を作る姿勢が重要 人材は、勉強会などフィールドでの活動で育つもの 当面、賛同する仲間集めが大切。将来、火山マイスターが育てばいいと言うくらいでいいのでは			
		実施方法	委員会が主催する養成講座はせいぜい一つ。我々が関わって地元でやっているような勉強会も養成講座に位置づけてやっていくのが合理的			「3 他の団体が実施する勉強会等を養成講座に位置づける条件」へ
2 火山マイスターを認定する	火山マイスターになるためには		火山マイスター認定に当たっては、何回か継続して見ないと判断できない 他の団体の学習会参加状況も認定の参考にしていくべき 人それぞれバックボーンが違うのに、一律の試験でマイスターを認定するのは変 担い手と思われる人には、目的を異にする様々な人がいる。一律の制度でいいのか がちがちな試験より、フレキシブルな試験がいい ランクアップできる階級制が望ましい 役所がいつまでも関わるのではなく、2年の事業期間後は地元で動いていこうにならないとダメ 一過性で終わらない地域に根ざした仕組みにする必要がある			「4 認定方法」へ
	火山マイスターの活躍イメージ		上記のとおり			
3 火山マイスターが活動する環境を整える			育成するだけでなく、活用する仕組みが大事 イメージマーク、合格証・携帯カードにより火山マイスターの称号を付与 立ち入り禁止区域での活動に火山マイスター制度が機能することを願う 立ち入り禁止区域への立ち入り許可について地域のルールがあるとやりやすい。 火山マイスター制度を活用して立ち入り禁止区域の解除のルール作りが出来るかも 火山マイスター制度の検討を機に、保護と利用のガイドラインをつくれればいい 立ち入り禁止区域には、無許可も含めていんな人が入っているので区別が必要。 ガイドブック、テキスト的なもの必要ではないか 環境省のパークボランティア制度との連携もあるのでは。 どういう制度なのか地域住民に正しいメッセージを与えて少しでも関心を持ってもらうことが大切			「5 火山マイスターが活動する環境を整える」へ
	その他		火山マイスターのスペックから議論をスタートさせるのではなく、先に、目標を設定しなければスペックの議論は成立しないのではないかと 災害の歴史や爪痕を含めて見せていく時代になってきたのではないかと 来て欲しいというメッセージがあれば、有珠火山に関する見どころはいっぱいある この地域はジオパークの有力候補 火山との共生にはいい案内役が必要。火山マイスターはその案内役になりうる。 お客さんの変化がガイドの励みになり、それが学びのきっかけになる 火山マイスターとエコミュージアムはねらいが重なっているので連携して取り組みたい 現地学習会では、若い人の参加が少ない 洞爺湖VCを活動拠点に			

1

火山マイスターに求める能力

大項目	中項目	小項目	火山マイスターに求める能力	説明	補足コメント
火山マイスターに求める能力	資質（次なる噴火に備えた地域防災のリーダーとしてふさわしい資質の持ち主である）		この地域と火山の共生についての理想・考え方を自ら持っている	この地域と有珠火山が共生していくための方策や、そのために果たすべき役割などについて、特定の考えに偏らないバランスのとれた理想や考えを自ら持っていること。	「火山との共生」は地域の大きなテーマ。いろいろな考え方はあっているが、少なくとも自分なりの考えは持っていて欲しい
			知識や技術を高めようとする向上心を持っている	火山マイスターとしてのガイド技術・能力をより高めるため、自ら学習し、トレーニングに精進しようとする意欲を持っていること。	養成講座などで網羅できる内容は、あくまでも、獲得すべき技術・知識の一部に過ぎない。自分でレベルを向上させようとする意欲は必要
			この地域に貢献しようとする熱意や行動力を持っている	有珠火山や地域の自然について正しく伝える活動を通じるなどして、将来の噴火災害の減災やこの地域の観光振興に貢献しようとする熱意がある。	火山マイスターは、次期噴火災害の減災に向けた活動のリーダーとしてこの地で貢献してくれるひと。
			貴重な経験や体験がある	登山学習会などへの参加や火山ガイド経験、語り継ぐべき貴重な噴火災害の体験をしている。	
					「資質」とは、持って生まれた「素質」のことなので、誤解生むかも。変わる表現ないか？
	正確な知識（有珠火山や地域の自然について正しく理解している）	有珠火山の専門知識（有珠火山や地域の自然について正しく理解している）	有珠山のおいたちや特徴について理解している	火の山の奏（第1章）に対応するイメージ	有珠山の地形、生い立ち、他の火山との比較、有珠山の恵み
			噴火の仕組み・噴火の歴史を理解している	火の山の奏（第2章）に対応するイメージ	噴火の仕組み、噴火の歴史
			2000年噴火について理解している	火の山の奏（第3章）に対応するイメージ	2000年噴火のあらましとその後
			次の噴火に備えた取り組みについて理解している	火の山の奏（第4・5章）に対応するイメージ	防災マップ、観測態勢、防災施設、安全まちづくり、避難の心得
			有珠山周辺の動植物などに関する基礎的事項について理解している		教えられる人いる？
	野外活動の基礎知識（野外活動に関する基礎知識がある）		自然に配慮するためのマナーやモラルを理解している	登山行動などで考えられる自然環境への悪影響など	
			ガイド行為に伴う様々な危険の発生要因を理解している。	危険な動物・昆虫（シカ、スズメバチ、キツネ、クモ）や自然現象（落雷、落石）への対応など	
			野外で安全に行動するための気象に関する知識を理解している。	気温と高度、体感温度、気象変化の特徴など	
			参加者に応じた対応のあり方や、コミュニケーションのあり方などについて理解している	年代別特性、わかりやすく説明する基本話法など	
			法令・保険・リスクマネジメントなどの知識がある。	ガイドの責任とその範囲、野外活動を行う上で必要な判断が出来る：リスクマネジメントが出来る。	ここまで求めるのは厳しいか
フィールド活動技術（有珠火山地域でのフィールド活動を実践するために必要な技術を持っている）		現地で火山や自然に関する正確な説明ができる。	自然には動植物に関することも含む。	せつかくの知識も、自分で知っているだけでなく人に伝えることができなければ意味がない	
		気候や気象条件、参加者の年齢・性別に対応した行動をすることができる		天候の変化による行程の変更とか、年代に見合った歩行速度の調節とか	
		参加者の年齢・性別などに応じて説明内容を組み立てることができる		年代に見合った説明内容とか	
		現地学習会などの企画・マネジメントができる	呼ばれた行事に出るだけでなく、主催とまで行かなくても、主体的に企画出来るような人	これができる人は知識も活動技術もある人？	
		救急時の対応が出来る。	野外活動時の怪我やトラブルへの対応、救急法講習など	ここまで求めるのは厳しいか	

2

火山マイスターの活躍イメージ

大項目	中項目	小項目	想定する活躍の場面	説明	検討の視点	
想定する活躍の場面	有珠火山との共生をめざす地域リーダー	防災（次の噴火に備えた地域防災のリーダーとして）	小中学校の総合学習の支援		火山マイスターは、防災を語るのか？有珠山を語るのか？→防災（減災）活動を効果的にするためには、有珠火山に関する正しい理解が不可欠。火山マイスターはこれが仕事では？	
			地域の防災勉強会・講習会などの講師	地元住民が対象		
			地域の火山防災活動に対する助言、協力	行政などの行う火山防災活動などのサポート		火山防災活動って具体的には何？
			有珠火山を正しく学ぶための学習会などの企画・マネジメント・主催	与えられた場面で知識を披露するだけでなく、学習会などを主催したり、主体的に関わって欲しい		
			次の火山マイスターの育成	火山マイスター制度が自立的に継続していけるように		
		観光（平時の有珠火山を資源として活かしていく地域リーダーとして）	質の高い火山ガイド	より学びたい者の知的好奇心を満たす	観光パンフ、各種施設の案内板、バスガイドのマニュアルなどの内容に関する誤りの指摘や、相談の受付、専門家との橋渡し。	
			観光パンフや施設の案内板など、火山に関する記述などの点検・助言			
		連携	行政や火山専門家との連携と協力	行政と地域住民、地域住民と専門家、専門家とマスコミなどの橋渡し役	具体的なイメージがなかなかかわかない	

大項目	中項目	小項目	想定する活躍の場所	説明	検討の視点
想定する活躍の場所			立ち入り禁止区域を含めた有珠山全域	昭和新山を含め、みんなが思っている「有珠山」地域	ごく自然な感じ
			洞爺湖全域	洞爺湖全域を有珠火山に由来する自然ととらえ、火山マイスターの活躍場所とする	いきなり広すぎるか？
			ジオパークエリア	火山マイスターをジオパークの地域活動の主体として位置づけ、その活動範囲も一致させる	ジオパーク登録がもう少し現実的になってから検討すればいいのでは
			エコミュージアム火山の恵みエリア	火山マイスターをエコガイド（仮称）の主体として位置づけ、その活動範囲も一致させる	エコミュージアムの取り組みがもう少し進んでから検討すればいいのでは
			特に決めない	善光寺の石割桜も火山活動の証。活躍範囲を「山」に限定する必要はない。	決めないまでも、ある程度想定しなければ制度の検討に支障があるのでは。

3

他の団体を実施する勉強会等を養成講座に位置づける条件

大項目	中項目	小項目	養成講座に位置づけるために考えられる条件	説明・補足	検討の視点
養成講座に位置づける条件	正確な知識（有珠火山や地域の自然について正しく理解している）		専門家のサポートを受けている		<p>どんな講座が養成講座に位置づけられるか、その条件をあらかじめ示すものであるが、最終的にはその都度専門部会で個別に判断することになるのでは。</p> <p>↓出来上がりはこんなイメージ？ 火山マイスター養成講座と同等と認める学習会等は、次の要件を満たし、専門部会が認めた事業とする。 ①企画段階で専門家のサポートを受けている ②専門家の参加がある</p>
			専門家の参加がある	参加するにも回数に限界が・・・	
			講義時間が〇〇以上	時間で内容判断できる？でもあまり短いのも・・・	
	フィールド活動技術（有珠火山地域でのフィールド活動を実践するために必要な技術を持っている）		専門家のサポートを受けている		<p>どんな講座が養成講座に位置づけられるか、その条件をあらかじめ示すものであるが、最終的にはその都度専門部会で個別に判断することになるのでは。</p> <p>↓出来上がりはこんなイメージ？ 火山マイスター養成講座と同等と認める学習会等は、次の要件を満たし、専門部会が認めた事業とする。 ①企画段階で専門家のサポートを受けている ②専門家の参加がある</p>
			専門家の参加がある	参加するにも回数に限界が・・・	
			講義時間が〇〇以上	時間で内容判断できる？でもあまり短いのも・・・	

■他の団体が実施する勉強会等(H18年度)

主催者	H18年4月	H18年5月	H18年6月	H18年7月	H18年8月	H18年9月	H18年10月	H18年11月	H18年12月	H19年1月	H19年2月	H19年3月	備考
NPO法人有珠火山の会	①実施日、行事名など ②実施内容、講師など ③参加対象、人数など			①7/23親子防災教室 ②消防資機材の説明や実験、大島等 ③伊達市内住民60人			①10/3有珠山火山原見学会 ②ロープウェイ～南外輪～銀沼火山～小有珠周辺、石川 ③伊達近隣住民30人					①3/17国道230号新ルートの見学会 ②三豊・青葉トンネル見学 ③伊達近隣住民30人	
そうべつエコミュージアム友の会	①4/22昭和新山登山学習会 ②山頂まで、岡田、三松 ③友の会中心に一般参加者も、64名	①5/20有珠山登山学習会 ②ロープウェイ～南外輪～北外輪～大有珠、岡田、三松 ③友の会中心に一般参加者も、52名		①7/7-8 いぶりさわやかアウトドアin 蟠渓 ②蟠渓自然体験館 どんぐり～オロフレ山の魅力と植物保護 討論会とオロフレ山登山 登別山岳会 東海林ほか ③対象は一般、友の会 討論会33名、登山27名	①7/29-8/27の土日(10日間)火山ガイド ②有珠山ロープウェイ 洞爺湖展望台 火山原展望台 友の会ガイド部会 延べ20名 ③一般来訪者 約2,000名	①9/29～30さわやかアウトドア勉強会 ②壮瞥町公民館～登山道の適切な管理と標識計画、四十三山散策路～案内標識を巡る会 ③勉強会は30名、現地は友の会中心に13名	①10/14洞爺湖中島を歩く会 ②中島一周コース(一部西山登山) 友の会 小川 ③会員限定 15名参加	①11/26全体会(H18年度Field 活動報告会) ②壮瞥町公民館(座学) ③会員限定 17名			①2/11 冬のオロフレ霧氷鑑賞会(地域資源調査) ②オロフレ峠への道道友の会 ③会員と関係機関19名		
有珠山ガイドの会	①4/302000年噴火の全火山巡りトレッキング ②宇井、岡田、土現、噴火メモリアル委員会主催 ③90人												
有珠火山防災協議協議会				①7/28～29火山防災サミット関連イベント ②7/28復活!はまなす隊、7/29西山川砂防内植樹、火山実験、高校生シンポ、岡田 ③有珠山周辺住民	①8/2火山防災サミット有珠山巡検	①9/22有珠山現地勉強会						①3/23市民防災講演会?	
伊達市		①5/27昭和新山現地勉強会					①9/23有珠山登山勉強会(登録者・市民一般)			11/20市民のつどい・防災講演会(生活振興課)		①3/23市民防災講演会 ②3/23伊達市職員防災研修会	
豊浦町													
壮瞥町					①8/19子ども郷土史講座 ②昭和新山、教育委員会、三松 ③壮瞥町内の小学生18、大人12	①9/15壮瞥中学校総合的学習 ②旧国道230号や西山火山口、宇井 ③壮瞥中3年	①10/10壮瞥中学校総合的学習 ②金比羅災害遺構散策路、砂防施設、道建設部 ③壮瞥中3年					①3/3地域防災講演会 ②「有珠山の研究・観測を振り返って」～岡田 ③壮瞥町民等130人	
洞爺湖町							①9/14エコミュージアム見学研修 ②1年：西山散策路～旧国道跡～第1展望台、2年：ロープウェイ～外輪遊歩道～銀沼火山～火山遺構公園 ③虹田高校1、2年生					①21/16～有珠山火山ガイド育成講座 ②10～20講義を集中開催、厚生労働省の地域提案型雇用創造促進事業 ③原則洞爺湖町民	
室蘭開発建設部												①3/26R230新ルート開通記念行事?	
室蘭土木現業所				②7/12「火山との共生と地域のみちを考えるワークショップ」 ②有珠山噴火時の課題の共有、地域の「みち」を評価、火山との共生と道路の役割を検証 ③地域住民ら30人			②10/3～4「火山との共生と地域のみちを考えるワークショップ」 ②有珠山噴火時の課題の共有、地域の「みち」を評価、火山との共生と道路の役割を検証 ③壮瞥町、豊浦町、地域住民ら30人			②12/5～6「火山との共生と地域のみちを考えるワークショップ」 ②有珠山噴火時の課題の共有、地域の「みち」を評価、火山との共生と道路の役割を検証 ③伊達市、洞爺湖町地域住民ら30人		②2/13「火山との共生と地域のみちを考えるワークショップ」 ②有珠山噴火時の課題の共有、地域の「みち」を評価、火山との共生と道路の役割を検証 ③地域住民ら30人	
その他	①4/29山開き ②伊達市側からの登山ルート～外輪山展望広場、観光協会主催、川崎 ③近隣住民約100人	①5/15有珠山外輪山遊歩道合同救助訓練 ②防災ヘリ出動 ③消防署員など関係者30人						①11/11首都圏修学旅行調査 ②昭和新山～有珠山展望台～西山火山口散策路、北海道観光連盟主催 首都圏の公立中学校教諭					

* 共催事業は重複しないように、どれかに分類

4

認定方法

大項目	中項目	小項目	概要	説明	メリット	デメリット	検討の視点
認定スキーム	応募タイプ	登録タイプ	①火山マイスターをめざす人は氏名を運営組織に登録 ②運営組織は、養成講座やイベント等の開催等を登録者に提供 ③登録者は、自由に養成講座を受講 ④登録者の内、希望する者のみ審査会で審査（年1回） ⑤合格すれば称号付与 ⑥合格しなければまた来年（登録を抹消するまで）	<p>*③と④が実質的な審査の場合 *講座を受講できなければ、審査を受けなくてもいい</p>	登録者には、情報の提供を受けられるメリットがある 登録者を火山マイスター候補者として普段から注目して見る（審査）ことができる 何年もかかって息長くチャレンジするスキームが自然	運営は誰が？ 提供する情報の集約結構大変では？	
		検定・試験タイプ	①火山マイスターをめざす人は運営組織に応募 ②必要に応じて養成講座を受講（任意） ③筆記・実技試験を実施（年1回） ④得点により可否を判定、合格者に称号付与	<p>*試験制なので、養成講座の受講は任意（受験資格にする方法も・・・）</p>	称号付与の課程が公平、公正 可否の判定に不満がない	毎年試験問題作るエネルギーは莫大 誰が試験問題を作る？ 1回の試験で力量計れる試験問題づくりは可能か？	全国的、全道的規模ならともかく、試験に要するエネルギーが大きすぎ、現実的ではないのでは 人づくりの手段として火山マイスターという称号付与制度を考えているもので、試験が目的ではない。
		ポイント獲得タイプ	①火山マイスターをめざす人は氏名を運営組織に登録 ②養成講座を受講するたびにポイントを獲得 ③ポイントが一定以上でマイスターの称号付与	<p>*ポイントの獲得度合いによってマイスターの各段階あり</p>	年1回に限らず常時認定可能 気軽に多数が参加出来る 可否の判定に不満がない	受講回数で力量を計れるか？	
	一本釣りタイプ	表彰タイプ	①火山マイスターに自薦又は推薦 ②推薦内容と面接、養成講座の受講状況など、日頃の活動状況を総合的に審査（年1回） ③合格すれば称号付与 ④翌年度はまた①から	<p>*④毎年度①から *養成講座など環境を用意するので自分でレベルアップ、これはと思う人材に称号付与（表彰と同じイメージ）</p>	仕組みがシンプルで手間も少ない。 閉鎖的（仲間内でやっている）と思われるかも 称号付与の課程が不透明ととられる可能性 レベルアップしようとするインセンティブが働かない？	3つの会のどれかに所属するなどの工夫も考えられる。	
		指名鍛え上げタイプ	①これはと思う人材を運営組織が指名、本人了解 ②養成講座のほか、専門家に同行させるなど個別に鍛え上げる ③良さそうな頃に審査会で審査（年1回） ④合格すれば称号付与 ⑤合格しなければまた「鍛え上げ」（指名を取り消すまで）		制度のスタート時には意外と現実的で有効？ 人材を育成する観点では実践的で、効果もそれなりに期待できる？	指名の過程が、閉鎖的で不透明 「気がついたら火山マイスターになっていた」と思われる可能性 地域住民総参加にはなりづらい	恒久的な制度としては疑問があるが、制度の立ち上げ時にはあり得るのでは 一方的な指名がまずいのであれば、火山マイスターになりたい人を募って選ぶ方法と同じように、火山マイスターとして鍛えて欲しいという人を募って鍛えていくというスキームも考えられるのでは

大項目	中項目	小項目	概要	説明	メリット	デメリット	検討の視点
対象者			1市3町に在住している者	ほかに考えられない	シンプルでわかりやすい基準	ずっと住んでるとは限らない	例外必要か？

大項目	中項目	小項目	概要	説明	メリット	デメリット	検討の視点
審査方法	資質	面接	個別面接or集団面接	火山の共生についての理想・考え方、向上心、地域に貢献しようとする熱意、経験や体験について、聴き取る。	/	/	
	正確な知識	なし	（面接と現地試験で行う）	知っているだけではダメ。いかに人に伝えるかが大切。現地試験や面接の中で判断するのが合理的。また、知識は暗記する必要はない。			
		面接	資質の面接に併せて行う	現地試験を補うような質問等			
	フィールド活動技術	現地試験	実際に現地を案内させる				

大項目	中項目	小項目	概要	説明	メリット	デメリット	検討の視点
組織	審査会		専門部会のメンバー 新たに結成	今の専門部会のメンバーの合議制で判断する	制度を検討している母体であり、合理的		
			エコミュージアム推進協議会 有珠火山防災会議協議会 新たに結成		平時の活躍の場や活動の範囲が重なっている 地域防災のリーダーという観点で趣旨の合致	地域防災のリーダーという観点ではどうか 平時の活動の状況という観点ではどうか	

大項目	中項目	小項目	概要	説明	メリット	デメリット	検討の視点	
グレード設定	グレード不要			火山マイスター制度が確立する前から検討する必要はない。 運用状況を見て、考えればいい。		レベルアップのインセンティブが働きづらい マンネリ化		
		グレード必要	マイスターが最終タイプ	火山マイスターは最終的な目標として、レベルを固定 マイスターに不合格者でも、力量に応じてジュニアマイスター（例）を名のって活動 何度もチャレンジしてやがてはマイスターに	ジュニアマイスター：マイスターの監督のもと、活動する者 アシスタントマイスター：マイスターの補佐的立場 ↓ マイスター ：単独で活動の指導を行うことができる知識・技術を持つ者	目標が固定していてわかりやすい	半人前みたいでおもしろくない？	永遠にマイスターが最終の資格ということではない。マイスターがたくさん育ってくれば、さらに上位の資格（マイスターを指導するマイスター＝3名の専門家のような存在）を設けていくことはあるはず。
				マイスターがスタートタイプ	マイスターになってもどんどんレベルアップ それに伴ってグレードもアップ	↓ マイスター ：単独で活動の指導を行うことができる知識・技術を持つ者 スーパーマイスター：マイスターの指導的立場 シニアマイスター：マイスターの指導的立場 ↓ 火山カリスマ：特に火山に関する知識豊富なマイスター	グレードがレベルアップのインセンティブに 上位の試験へのチャレンジが、継続的なスキルアップを図る場の創出になる	何が偉いかわからなくなる？ 上位の資格がたくさん出ると、マイスターのありがたみが薄れる

5

火山マイスターが活動する環境を整える

大項目	中項目	小項目	想定する活躍の場	環境整備の内容	運営組織の役割	補足コメント
活躍の場面	有珠火山との共生をめざす地域リーダー	防災（次の噴火に備えた地域防災のリーダーとして）	小中学校の総合学習での講師	学校と運営組織との連携協定	総合学習で火山を扱ってもらふこと、火山をテーマにした学習には、どんなメニューがあるか組織的に示していく	
			地域の防災勉強会・講習会などの講師	開催情報の収集と主催者への火山マイスター制度のPR	情報の集約、発信、つなぎ役	
			地域の火山防災活動に対する助言、協力	開催情報の収集と主催者への火山マイスター制度のPR	防災会議協議会を運営組織のメンバーに	
			有珠火山を正しく学ぶための学習会などの企画・マネジメント・主催			
			次の火山マイスターの育成			
		観光（平時の有珠火山を資源として活かしていく地域リーダーとして）	質の高い火山ガイド	PR		
	観光パンフや施設の案内板など、火山に関する記述などの点検・助言	点検結果の受け皿や誤った記載に対する指摘を行う者を運営組織に統一		誤りの指摘は行政が行った方がいいかも		
	連携	行政や火山専門家との連携と協力				

大項目	中項目	小項目	想定する活躍の場所	環境整備の項目	運営組織の役割	補足コメント
活躍の場所			立ち入り禁止区域を含めた有珠山全域	火山マイスターに対する立ち入り禁止区域解除のルール化		ルールによる予測ができれば活動しやすい
			洞爺湖全域			
			ジオパークエリア			
			エコミュージアム火山の恵みエリア			
			特に決めない			

大項目	中項目	小項目	想定する活躍の場所	考えられる条件	防災協議会の役割	補足コメント
禁止区域への立ち入り条件				1回の人数制限		
				地元住民に限る		
				年間総数制限		
				商業ベース禁止		
				火山マイスター同行		
				特定の団体の主催に限る		

大項目	中項目	小項目	想定する活躍の場所	整備すべき内容	整備の方法	補足コメント
その他	活動アイテムの整備			ガイド本の作成	交付金？	
				講座テキストの作成	交付金？	
				体験のデータ化と保存	交付金？	
				教材となる資料の収集や教材の開発	交付金？	